

令和2年度

社会福祉法人ルンビニ福社会事業報告

法人の基本理念

社会福祉法人ルンビニ福社会は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行った。

- ① 幼保連携型認定こども園ルンビニこども園の経営
- ② 幼保連携型認定こども園嬉野ルンビニこども園の経営
- ③ 一時預かり事業

法人 教育・保育の理念 ビジョン

★ すべての子どもの、現在と未来の幸せのために

- 意欲と知恵（工夫）と豊かな愛情、そして科学的、経験的な「根拠」に基づいて、子どもの幸せの実現を目指します。
- 一人ひとりを大切に、子どもの「これから生きる力」の基礎を育成します。
- 地域に根差し、信頼される「子育て支援拠点」となるよう努めます。

教育・保育の基本方針

★ 響きあい、高めあい、ともに育ちあう

- 幼保連携型認定こども園教育保育要領を遵守し、計画的な「環境を通して行う教育・保育」の中で一人ひとりを大切に。
- 保育教諭等は、園児との信頼関係を築き、園児と共によりよい教育・保育の環境を創造するよう努めます。
- 保育教諭等は、保護者と緊密な連携の下、一人ひとりの特性や発達課題を的確に把握し、一人ひとりの発達のプロセスを尊重しながらチームで教育保育をすすめます。
(パートナーシップ・チームワーク)
- 保護者からの意見や要望があれば真摯に傾聴し、不明なところがあれば平易に説明して、よりよい気養育保育のために努力研鑽することを基本といたします。

1. 教育計画

[1] 教育方針

教育・保育の理念～すべての子どもの、現在（いま）と未来の幸せのために～

- 意欲と知恵（工夫）と豊かな愛情、そして科学的、経験的な『根拠』に基づいて、子どもの幸せの実現を目指します。
- 一人ひとりを大切に、子どもの「これから生きる力」の基礎を育成します。
- 地域に根ざし、信頼される「子育て支援の拠点」となるよう努めます。

教育・保育の基本方針 ～響きあい、高めあい、ともに育ちあう～

- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を遵守し、計画的な「環境を通して行う教育・保育」の中で、一人ひとりを大切に「養護と教育が一体となった教育・保育」を行い、子どもを主体として育てます。
- 保育教諭等は、園児との信頼関係を十分に築き、園児と共によりよい教育・保育の環境を創造するよう努めます。
- 保育教諭等は、保護者との緊密な連携の下、一人一人の特性や発達課題を的確に把握し、一人一人の発達のプロセスを尊重しながら、チームで教育・保育をすすめます。
- 保護者から意見や要望があれば真摯に傾聴し、不明なところがあれば平易に説明をして、よりよい教育・保育のために努力研鑽することを基本といたします。



環境を通して
行う
教育・保育

人的環境：子どもとの信頼関係を十分に築き、子どもが自ら安心して環境に関わりその活動が豊かに展開されるように働きかける。
物的環境：外遊びも室内遊びも、子どもの育ちに合わせて、「おもしろそう！」「やってみよう！」「楽しい！」と、子どもが主体的にかかわって楽しむ事の出来るように、ねらいを込めて、計画的に整える。そして、「どうすればもっと楽しくなるかな？」と、さらにあそびが展開されるように、子どもと共に作り上げていく。

養護と教育が
一体となった
保育

養護：子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育教諭等が行う援助や関わり
*子どもを前にした時に優しい気持ちになり、子どもを愛しいと思い、その子を大事だと思い、その子のその都度の思いをしっかり受け止め、その存在を尊重する姿勢の総称。（慈しみ守る心の働き）
教育：子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助
*自分が育てられて育ってきたように、子どもが少しずつ大人に近づいてきてくれることを願い、いろいろなことができるようになるようにと期待して行う様々な働きかけ。大人の一方通行の強い何かをさせる働きかけではなく、未来の大人である子どもの「大人から何かを学びとって大人に近づこう」という前向きな姿勢と結びついた働きかけ。

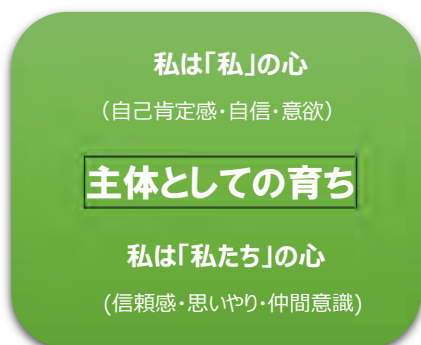
一人一人を
大切に
教育・保育

一人ひとりの行動をよく見、その思いをよく聞き、その思いに寄り添いながら援助をする。
（0・1・2 歳児の担当制保育と流れる日課、応答的な保育、共感的な言葉かけ）

教育・保育の目標

「子どもの最善の利益を考慮し、生活を通して、
子どものこれから生きる力の基礎を育成する。」

年齢別の発達課題と保育の目標



0 歳児：人との信頼関係の芽生えを育む

1 歳児：あせらずゆっくりと一人一人の育ちに寄りそって

2 歳児：「じぶんで！」の気持ちを大切に

3 歳児：なぜ？どうして？の興味や好奇心を大切に

4 歳児：豊かな感情体験を得るように

5 歳児：個と集団のよりよい関係をもつように

主体として育てる

- 1 配慮の行き届いた環境の下、くつろいだ雰囲気の中で、子どもの思いを受け止め、それに応えることによって、生命の保持と情緒の安定を図り、信頼感と安心の中で**自分を肯定する心(自分を大事と思う心)**を育てる。
- 2 健康や安全、食事、身辺自律など、生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、**生活を楽しみ心身の健康を喜ぶ心**を育てる。
- 3 周りの人に関わり、仲間と仲良く遊ぶことを通して、**物事に意欲的に取り組む心、自己を主張する心、人に対する信頼や人の気持ちを尊重する心**を育て、それによって自主自立および協調の態度を養い、ともに生活する姿勢を培う。
- 4 身近な環境に関わる中で、生命の不思議さや大きさに気づき、**自然や社会の出来事に興味や関心を持つ心**を育てる。
- 5 保育者や仲間と生活するなかで、言葉への興味や関心を育て、**言葉によって自分の気持ちを素直に表現したり、相手の話を聞いたり、相手の話を理解したりする心**を育てる。
- 6 見る、聴く、体を動かす、絵を描く、歌う、演奏するなど、さまざまな体験を通して、**感性豊かに感じる心、表現することを楽しむ心**を育てる。



2. 食育計画

食育目標：楽しく食べる子どもに

～生活リズムを整えて、食べるのが楽しみな子どもをみんなで育てよう～

年齢別の目標

- | | |
|--------------|----------------|
| 0歳児：よく噛んで食べる | 1歳児：食べるリズムを整える |
| 2歳児：何でも食べる | 3歳児：選んで食べる |
| 4歳児：楽しく食べる | 5歳児：ゆったり食べる |

自園調理で作る「こだわりの給食」

- (ア) 栄養・バランス・彩りはもちろんのこと、季節や風土にあったメニュー作りを基本にしながら、油・砂糖・塩分を控え、和食メニューを中心に、食材の持っている自然の味を生かす工夫を行う。
- (イ) 厚生労働省「日本人の食事摂取基準」に基づいて、必要な栄養素の摂取を行う。
- (ウ) 食育計画に基づき、季節の旬の食材を味わって食べる「ベジタブルデー」、歯ごたえのあるメニュー多く取り入れよくかんで味わって食べる「カムカムデー」、大豆製品と旬の野菜を中心とした「マクロビオデー」などを実施する。
- (エ) 発酵食品（手作りヨーグルトやもろみ納豆）を週1回提供する。
- (オ) 地産地消を推進。（地元産の食材を直売所から購入し、調理する。）
- (カ) 配慮を要する子どもへの丁寧な対応（体調不良・食物アレルギー・障がいのある子ども）

職員のチームワークで取り組む「食育活動」

- ① 発達に沿ったクッキング活動（梅つけ・おにぎりなど：こねる・丸める・ちぎる・混ぜる・焼くなど）
- ② 発達に沿ったお手伝い活動（たまねぎやとうもろこしの皮むき・こんにやくちぎり・米洗い・・・）
- ③ 収穫した野菜を使った給食の提供
- ④ 野菜の収穫活動を楽しんでから～栽培活動へ
- ⑤ 園庭でのかまど体験（かまどごはん・かまどパン・たけのこゆで・・・）
- ⑥ 月に1度の「食育会議」で、評価と改善を行い、次につなげる。

事業報告

社会福祉法人ルンビニ福祉会は、上記の法人の理念に基づき、目標を実現していくために、嬉野市及び利用者の住する市町と緊密な連絡を取りながら、教育保育事業を推進した。

また、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が拡大し、緊急事態宣言も発出され、教育保育の継続が危ぶまれたが、嬉野市や保護者、職員の協力のもと、一人の感染者も出さず、新型コロナウイルス感染症による休園もすることなく教育保育を継続できた。

法人運営

- * 理事会・評議員会の開催

職員研修計画

- * 法人の理念、方針、目標を達成するために職員研修を行った。
- * 各種研修への職員派遣。

令和2年度はコロナ禍のため、多くの研修会が中止となったが、リモートによる研修が実施され、非常勤職員も含めて多数が研修受講することができた。

特別保育事業

- * 延長保育促進事業（開所時間12時間）
- * 障害児保育事業（ルンビニこども園・嬉野ルンビニこども園）

その他の事業

- * 0歳児保育の積極的推進
- * 子育てに関する相談などを受け、子育て支援事業を実施。
- * 園庭の開放。
- * その他地域の子育ての中心的施設となるように努力した。

労働時間関係

- * 労働時間は、週40時間。